

90周年企画

100周年ビジョン

2015年6月23日

日本棋院

現在、世界の囲碁人口は増加しているものの、日本の囲碁人口はピーク時の12百万から1/3に減少しており、特に働き盛りの年代の空洞化が進んでいます。今後、老若男女を問わず、幅広い層に囲碁を普及させることが大きな課題です。

世界棋戦においては一昨年のアジアTV杯、第1回グロービス杯を除き、世界棋戦で日本の棋士が活躍できない状態が続いています。

囲碁人口の減少、世界でなかなか勝てない日本棋士、そして財務基盤の劣化。この現状を鑑みて、日本棋院創設90周年にあたる昨年、10年後の100周年に向けたビジョンをどう描くかという構想の下、「100周年プロジェクト」が開始されました。同プロジェクトは「厳しい現実」を直視して、大胆かつ抜本的な改革を進めないと囲碁界の未来が無い。その強い危機感をもとに、10の行動を提言しました。

100周年を明るく迎えるために、10年かけて着実に「10の行動」を実行に移すことが、日本棋院並びに囲碁界に強く求められていると思います。

**100周年の姿：囲碁人口500万人！学校、企業、家庭で老若男女が囲碁を楽しむ。**

## **行動1. 囲碁普及～囲碁人口の増大を**

### **1. 教育への導入**

- 1) 幼稚園、小学校授業(放課後含む)の拡大**
- 2) 中学校・高校・大学の囲碁部の創設支援**
- 3) 大学への囲碁講座の拡大**

### **2. 社会人(20～40代)と女性・高齢者への普及**

- 1) 企業内囲碁部の普及拡大**
- 2) 社会人の囲碁サークルを奨励**
- 3) 女性を増やす。(囲碁ガールズの拡大など)**
- 4) 碁会所等、他の囲碁団体と連携強化を通して高齢者ファンの増大**

### **3. 草の根囲碁普及活動の支援**

- 1) 囲碁の裾野拡大に向け、初心者対象指導法と級位認定の統一  
(例) 入門者・初心者向けコンピューターソフトによる客観的棋力認定  
コンピューター対戦によるスーパー15級**
- 2) 囲碁カフェ、朝囲碁ボランティア活動支援**
- 3) 普及指導員・学校指導員制度の改革・活性化＝パートナーシップ型**

**100周年の姿： 世界トップ10に2人、トップ20に4人、トップ50に10人**

**行動2. 世界で勝てる棋士を数多く育成する。**

### 1. 院生制度改革

- ・院生制度の門戸を拡大し、倍増させる。(院生の下部組織創設(アマ大会参加も可能))
- ・ネットを活用した院生養成部を創設、日本全国から才能ある人材を集める。

### 2. 棋士の登用

- ・棋士への登用年齢を段階的に下げ、棋士採用時に社会人としてのマナーなどの人格面での研修も実施する。

### 3. 若手棋士の育成

- ・GO・碁・ジャパン活動の強化
- ・U20の総監督を設け、若手の育成を徹底強化する。毎日朝9時から5時まで碁の勉強を集団で行う制度を導入する。(中国棋院制度を日本にも導入)
- ・中国・韓国で武者修行する機会をつくる。

### 4. ランキング制度の導入

- ・明確な目標をもって戦うプロ集団としての意識を高めるために日本・世界ランキング制度の導入を検討する。

# 100周年の姿： 日本棋院会員を10万人以上！！

## 行動3. 大胆かつ抜本的な改革を実施し、財務基盤の確立を

1. インターネットの普及や経済・社会の変化に即応、意思決定の迅速化を図るため執行部へ積極的に外部人材を登用、執行体制の見直し・構築を行う。
2. 棋士の報酬制度を従来以上に囲碁普及への貢献を重視する棋士の報酬制度の在り方を検討するプロジェクトを立ち上げる。
3. 職員の人事制度も、収支改善に向け経営環境の変化に対応したインセンティブの働く制度の導入を図る。
4. 財務基盤強化は、以下を中心とする。
  - 1) ネット「幽玄の間」を中心にして、小口販売を強化して、ロングテールでの収入増へ。また、クラウドファンディングを有効活用する。
  - 2) 会員制度の改革：個人会員、ネット会員を見直し共通の日本棋院会員(仮称)を創設する。  
大会への参加や、日本棋院、総本部、本部支部の割安使用、ネット・出版の割安購入、自戦解説付き棋譜提供等による会員メリット向上

100周年の姿:地域対抗、実業団が加わり、囲碁コンGRESがある。

## 行動4. 地域対抗・実業団棋戦と囲碁コンGRESの創設

### 1. 地域対抗プロ(・アマ)棋戦の創設

地域ブロックから当初8チーム(東京のみ2チーム)を組成し、地域スポンサーと連携して、地域対抗のGリーグ(仮称)を創設する。

例)仙台タナバタvs福岡ヤマガサ

### 2. 実業団対抗戦の創設

### 3. ジャパン碁コンGRES開催

(2020東京オリンピック・パラリンピック(以下東京五輪)に向けて)

世界アマ碁大会・碁サミット・女流都市対抗やタイトル戦を絡めて、同時期に年一回の碁コンファレンスを開催する。

### 4. タイトル戦をファンがより楽しめるよう土・日での開催を増やす。

### 5. 遠隔地の方との対局の際には、ネット対局を拡大する。

(地域ブロック対抗戦や国際棋戦にも有用)

100周年の姿: ネット会員10万人以上。入門から高段者、子どもからお年寄りまで幅広い層が利用している

## 行動5. ネット戦略を描き、幅広い層へアピール

1. ネット戦略を構築するプロジェクトチームを組成して、抜本的にあり方を検討する。
2. 「幽玄の間」のサービス拡充  
情報会員とのサービス相互乗り入れ、決済機能の強化、会員種別の多様化(年払い会員、限定利用会員)など
3. 入門・初級者戦略  
スマートフォンを中心とした、自社開発コンテンツの提供や既存アプリとの連携による、入門・初級者の取り込み
4. ホームページの活用
  - ・公式ページでの全国各地の大会・イベント情報発信とWEBでの大会エントリー受付
  - ・ファンと棋士との交流広場

100周年の姿：囲碁の棋戦結果などが、常にニュースになる。  
ニコ動等の中継は常に10万人以上が視聴している。

行動6：メディア戦略～囲碁の知名度を徹底的に上げる。

1. 日本棋院内に専任のメディア戦略・広報チームを組成する。
2. 既存メディア(テレビ・新聞・雑誌)との関係強化  
対局放映の増加、随時プレスリリースを配信するなどして、常にニュースネタを提供して話題をつくる。
3. 新規メディアの開拓
  - 1) ツイッター、フェイスブック等のソーシャルメディアの徹底活用
  - 2) ニコ動、ユーチューブ等動画の活用
4. まんが、アニメ、ゲームによる囲碁の認知度を高める。

**100周年の姿：東京五輪で囲碁フェスティバルが開催され、ジャパン碁コンGRESSがレガシーとして存続し、世界のGOの中心として日本が輝いている。**

## 行動7. 国際戦略～世界のGoの中心として日本が輝く

1. 東京五輪に合わせた囲碁の世界発信と2016年のスポーツ文化ダボスの活用（文科省が主催するスポーツと文化の祭典）
2. シアトル、サンパウロ、アムステルダム碁センターを拠点とした、またINAF（岩本北米基金）を活用した日本囲碁の世界普及拡大
3. 「日本大使杯囲碁大会」の拡大
4. コンテンツを積極的に英語化して、日本発囲碁コンテンツを世界展開する。

**100周年の姿：囲碁が子供、経営者、シニアにとって有効であることが社会の常識になっている。**

## 行動8. 囲碁の研究を深め、データの蓄積～人工知能・科学との融合

1. 棋士の育成手法に関するリサーチを強化して、人工知能等を組み合わせた、指導法を確立する。
2. 教育、医療、家族・地域の絆など、囲碁の多面的な魅力と効用を主に子供、成人、シニアに分けて研究し、海外研究機関とも連携・アピールする。
  - 1)子供にとって囲碁の情操面・頭脳面での効能
    - ・川島先生の研究などを広げる。囲碁の効能・認識力、創造力、コミュニケーション力、記憶力、集中力により、感情の抑制、いじめの防止
    - ・囲碁と学業成績の相関関係の実証調査と周知
  - 2)大学における囲碁講座、囲碁のビジネス書発刊を通して、囲碁のもたらす戦略的発想などビジネスへの活用分析を深める。
  - 3)シニア向けの研究を強化する。
    - 絆作り、アルツハイマー研究、認知症など

100周年の姿：地域定住棋士と地域拠点が連携し地域を盛り上げている。

## 行動9. 地方の普及盛り上げと地域の活性化

### 1. 日本棋院の地域普及の柱

インターネット対局拡大等により地域定住棋士制度を創設して、地域普及の核とするとともに、県本部・県連と連携して普及を図っていく。  
独立採算が可能なブロック制もあわせて、検討する。

### 2. 本部・県連・支部の活性化と普及

普及に積極的に取り組んでいる、或いはこれから活性化を図る県本部・県連と連携し、普及強化(棋士派遣等)のテコ入れを行い、支部組織の活性化を図る。

また、囲碁愛好家の底辺拡大のために創設した「入門・初心者」会員の充実を図り囲碁人口の増加を目指すとともに、支部会員を拡大、支部の活性化に繋げる。

### 3. 重点的取り組み都市を指定して、「囲碁祭り」のような自治体との協力取り付けの目標値を設定する。

囲碁サミット加盟市町村並びに県本部等を中心とした地方自治体との強化体制を構築し、地域の囲碁活性化をはかる。

100周年の姿:ファンの声を尊重し、棋士、職員、囲碁関係者が一緒になって  
囲碁界を盛り上げている。

## 行動10. 囲碁ファンの声を尊重し、100周年に向け発展を！

(参考例) 「ビジョン」策定にあたり寄せられたファンの声

1. 9路盤、13路盤をスマホ等を通して広く普及させる。9路盤と13路盤の棋士対局も増やす。スマホで学べる囲碁アプリも拡充する。
2. 囲碁と将棋とオセロによる三種競技である「トライボーディアン選手権」が開始され、将棋やオセロのユーザーにも囲碁が親しまれている。
3. ファンに親しみやすい囲碁をモチーフとしたキャラクターを採用し、ホームページ、雑誌、新聞等の各種媒体で活用する。(ゆるキャラ部門、ガチキャラ部門、囲碁少女部門、4コマ部門など)